

すずかんの

医療改革の「今」を知る

危機打開と再建へ
国会議員も
立ち上がりました。

第30回

産

科・小児科、救急医療などの現場で、過酷な毎日と精神的重圧に耐えきれず、退職希望者が続出しているようです。

先日、妊婦・新生児の救急受け入れで、奈良県と並びパンク状態にある神奈川県、周産期医療を担うリーダーの皆様をお連れして、

県庁に伺ってきました。自ら付き添って、

重症妊婦さんを神奈川県から栃木県や長野県まで搬送されたお話や、消耗する先輩医師の姿を見て、産科希望者がいなくなってしまうたとの

お話も伺いました。

また、複数の名門大学医学部教員から、新卒医師のなかで外科志望者が激減しているとお悩みも伺いました。

救急医療について、受け入れたくても、空きベッドもない、対応できる医師もいないとの声が寄せられています。

こうした周産期、救急、僻地、へそち外科医療などの危機的状況を打開するため、2月12日、超党派で「医療現場の危機打開と再建をめざす国会議員連盟」を立ち上げました。

9名の発起人で全国会議員に呼びかけたところ、145名を超える議員が入会。このような大規模な議連は珍しく、多くの国会議員も心配していることがわかりました。

発足記念講演会では、日本医学学会会長で自治医科大学長の高久史磨先生、国立がんセンター中央病院長の土屋了介先生に、俯瞰的かつ具体的にお話をいただきました。国会議員一同、現場の深刻さを改めて痛感するとともに、これからは、役所まかせでなく、現場で頑張っておられる患者・医療者の皆さんと直接つながり、省庁の枠を超えた確かな政策を作ること、医療現場に士気と誇りと情熱を取り戻し、崩壊を食い止めていかねばとの決意を新たにしました。

第です。

今後は、現場視察やネットも通じて、皆さんから、ご意見を伺うとともに、医療者・患者・議員が一同に会したシンポジウムを4月12日夕刻に開催する予定です。

救急患者のたらい回しの根絶、患者の安心と納得、医療事故防止、過酷な勤務環境の改善、地方に赴く医師への支援、頑張った医師が報われ、最善を尽くした医療者たちが思わぬ不利益を被らないための方策をはじめ、現下の医療現場に関し、多くの皆さんにご提案いただければ幸いです。

現場からの医療改革推進協議会事務総長、
中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員

鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずかん。1964年生まれ。慶應義塾大学SFC環境情報学部助教授などを経て、現職。教育や医療など社会サービスに関する公共政策の構築がライフワーク。